

## 会長短信

### 航空部の黎明

小 野 哲

あれから70年二つの震災の合間で何があったか  
翔友にからめていえば、櫓と固定脚から単葉引き  
込み脚へ、またはプロペラ機からソアラーが正解。  
大正の二桁は措き、昭和の一桁を顧みれば、S4年  
に日本航空輸送が定期便を開業し、S5年には学  
連結成で関学参加、翌6年8月にリンドバーク夫  
妻が濃霧に悩みながら千島経由で来訪。

そのころ超特急つばめ東京神戸9時間を小学生  
の私はアイスシャーベット1つで西宮に帰省。

昭和4年8月浜口首相は官邸バルコニーから夕  
空を霞ヶ浦に向かうツェペリン号の帝都訪問を望  
遠してうなった。ドイツの航空技術の卓越振りに。

シベリアから靉靄海峡津軽海峡佐渡島宇都宮霞  
ヶ浦を経て千住東京駅上空を水素気球のバケモノ  
が通り抜けたのだから、時速110キロで。

発動機のゴンドラが5ツなのか6ツなのか思い  
出せない。4翅プロペラだろうが、不思議な協和  
音をウインウインと頭上一杯に響かせながら…。

あの銀色の巨体！

記憶は穏やかに変化し、その核心の部分は鮮明  
に持久し、一層強化されることは、個人差を伴い  
ながらにバリエを創出しますし、しました。

プロペラのイメージは私の場合、カラス型飛行  
器とくに乙型に結晶しましたから、体育別館の航  
空部隣室がKFCの看板の機在庫、いな模型班だ  
ったことは巨椋の田圃で飛行器大会があり無線連  
絡の応援に駆り出されたOBの苦い思い出になっ  
ているに相違ないし、富山八尾の草刈り十字軍の  
手伝いよりは「空のイベント」の微かな関わりに  
思えたかも。

あれはレイノルズ数が1万以下のグライディン  
グと回転数毎秒10回で上昇のゴム動力機の実習と  
観測応援だった。

それはちょうど、霞ヶ浦に繫留されようとする  
Z号の誘導索を掴んだりぶら下がったり450人の  
海軍航空隊は白作業服の地上勤務員の仕事に類  
する、珍しい体験のおすそ分けでした。

そんなんかアのOBのうめきが聞こえそうで  
す。

閑話休題 浜口首相のうめきをよそに霞ヶ浦航  
空隊のリーダーは昭和維新の渦流のソバ杖を喰ら  
いますが、そうでない向きは飛行機操縦者の養成  
の一線に競いあいます。そしてその成果を新聞と  
軍と戦争が総ざらいしてしまいました。

日本には空軍がありませんでしたから、陸軍と  
海軍とが航空人の取り合いを演じます。

フロートか櫓か櫓付きタイヤか、固定か引き込  
みか、この魅惑的な処方せんに空を憧れる若者が  
挑戦しました。残念ながら若者の挑戦は無残な結  
末を辿ります。

滑翔部門までもふくめ自由飛行は権力の統制下  
に置かれ、権力は原潜の艦長よりもっと巧妙に行  
跡を晦まします。いまや権力に抗う勇者が希有の  
世界に成りました。新聞までが航空行政の統制に  
協力的です、自己の延命の為にそうするよりない  
のでしょうか。学連が実習船の二の舞いを演じない  
ように、と祈るばかりです。

自由飛翔は海外で嗜むことになりそうです。

## 部長短信

坂口 一彦

21世紀を迎え改まった気分です。正月を迎えました。最近の1年間の動きは20～30年前の数年間の動きに匹敵する変革と申しますか動向が激しく感じられます。過去には機能的に作用していた組織、機関が今や制度疲労により十分に機能しなくなった例は幾多も数えられます。最近国は、省庁の組織の大改革を実施しました。これらの省庁がどのように機能するか、われわれは冷静に見守らなければなりません。

近年世間を震撼させる出来事が多発しています。社会の規範、生きるための個人の規範がしだいに希薄となっています。いやもはや規範の存在はなくなってきているのかもしれませんが。これは社会の形成、国家形成の上で日本はどのような道を歩むのか。何か出来事が起こるたびに一時期は世間の話題となります。しかし人の噂も75日と言われるように忘れ去られ、また次の出来事を待っているかのように次から次といった昨今であります。

昨年ノーベル化学賞を受賞された白川英樹先生の著書からセレンディピティ (serendipity) という言葉を知りました。その意味するものは「偶然からものをうまく見つけ出す能力」ということです。偶然という言葉はわれわれの日常生活の中でしばしば使われます。偶然に出会うことは人生においては数限りなく起こり得ることです。しかし大多数の人々は偶然に起る事象の重要性に気付かずやりすごす場合が多いようです。セレンディピティに気付きそれを生かす能力を発揮する人間はほんの一握の人達かも知りません。

偶然には二つの偶然があると思います。一つはある目的のもとの行為の中から偶然発見される事

象があります。これは白川先生のノーベル賞に結び付いたようです。またもう一つはまったくの偶然の機会に出会うことです。これもやはり偶然の中からうまく見つけ出すことはきわめて困難です。われわれのように自然科学の研究を仕事としている人間にとっては非常に重要なことではありますが気付かずやりすごすのが常です。

今年は3年ぶりに全日本学生グライダー大会に出場しました。本年度は昨夏頃からいろいろなことがありました。グライダー競技会のルール改正が学連によって行われました。この件ではわれわれ(同立両大学)と学連との間に若干のやりとりがありました。東海・関西競技会と同立競技会はこの新しいルールが適用され行われました。同立戦は何とか勝利し連敗にピリオッドを打ちました。東海・関西では団体で8位となりましたが、後日1チームの辞退があり繰り上げ出場となりました。出場の2選手にとっては偶然の産物でした。卒業の迫った2人にとってこの偶然の出来事が彼等の人生においていろいろな意味のある出来事として思い出に残ることとなるでしょう。わが同志社にとっても全国大会出場の機会が与えられたことは大きな意味のある出来事でした。偶然の出会い、偶然から生まれたチャンスを自分のものとする能力の養成こそ肝要と思う今日この頃です。

## 監督短信

新庄博志

毎年3月になると原稿の依頼をいただきます。思い返せば、ここ数年来の日本の状態は、止まる事なく後ろ向きで、追出しコンパの時に出て行く学生の顔を見るたびに、社会状況の厳しさを痛感します。一社会人として、一企業家として、巣立つ学生達に希望で夢あふれる社会にしてやれない現実、大流の中では致しかたないことかもしれません。

お礼が遅れました。平素は、学生の活動に深いご理解と、惜しみない協力を賜り、ありがとうございます。また、ぶしつけな学生のお願ひ事に、快くお聞き入れいただく事数多く、はなはだ申し訳ないかぎりです。

さて、決して華々しさのある勝ち方ではありませんが、久しぶりに同立戦に勝つことができました。また、繰り上がりの出場ではありますが、3年ぶりに全国大会に参戦することができました。企業においても然り、ボランティアにおいても然り、組織の継続性の根本は成果物の生産です。そこに生まれてくるものがないと、なかなか物事は続かないものです。実際に見えたもの、形として残るものがないと、持続的な組織運営はもとより発展性さえ阻害されるのは必然です。ここ数年来の学生達は、まさにそんな中でもがき苦しんでいたような気がします。それがようやくここに来て実際にトロフィーを目にし、また妻沼の地に足を入れることは、彼らにとって新たなステップを踏める礎石になることは間違いありません。「全国大会に、全員で応援に行きます。」という学生の言葉で感動してしまうのは、僕が歳をとってしまったせいでしょうか？ まだまだ歴戦の先輩方の実績には程遠い状態ですが、少しずつ、着実な成果を喜びたいと思います。

また、2年前よりご支援いただいています新人勧誘においては、貴重なOB会からの拠出を賜り、

重ね重ねありがとうございます。おかげさまで、各校、また校内の体育会でも深刻な部員減少の中、着実な部員の増加をはかることができました。昨年は久しぶりに単独合宿も再開でき、ようやくクラブとしての主体性を発揮でき始めてきました。そして何よりも、現役の学生自身が、組織の存続の中で新人勧誘の重要性を再認識できました。1年目はOB主導で、2年目は現役とOBと調整しながら、そして3年目の今年は一から学生が計画し、いま準備を進めています。

今年度からは、新たに岐阜県の大野川滑空場の運用が始まります。また、滋賀県の野洲川でも近年中に滑空場が整備される予定です。新たな学生の活躍のフィールドが増えると同時に、OBのフライトのチャンスも拡大します。特に関西圏では学校卒業後、OBの飛ぶところが限られ、ある意味では学生の、自分の将来のフライトを制約していたことが、関東圏と比べて大きかったと思います。OBが飛び、それを見る、見せることが、学生の将来設計の中でグライダーの占める部分を広げることとなり、ひいては現役時代の励みにもなることと思います。そういう意味で、この二つの滑空場は新たな価値観を創造し、新たなかわり方を実現できるフィールドとして、大いに期待しています。

最後はいつものお願いです。先日のOB総会では懐かしい「館の主」のお顔もお見受けしました。やはり、我々の行き着くところはここかな、っと思いました。ほんの少しでもお時間がありましたら我々の古巣にお力を貸してください。学生達の活躍を共有できる時間ほど楽しいことはありません。